

今回は、研究推進モデル校の取組、特別支援学校における教科指導に関するアンケート結果の報告、学習指導要領の改訂のポイントについて紹介します。

## 研究推進モデル校の取組

### あぶくま支援学校の取組

#### 資質・能力の明確化～小・中学部、高等部の実践から～

- 児童生徒の実態を的確に捉える  
(知的障がいの状態、生活年齢、学習状況や経験等)
- 学習する教科の段階と目標・内容を学習指導要領で確認する
- 児童生徒の学びの姿をイメージする
- 育成を目指す資質・能力の3つの柱で指導目標を整理する  
(1)「知識・技能」  
(2)「思考力・判断力・表現力等」  
(3)「学びに向かう力・人間性等」

あぶくま支援学校では、小・中学部、高等部において、教科別の指導に焦点を当て、資質・能力の明確化に重点を置いた取組がなされました。授業者が指導目標設定に至るまでのポイントをまとめ、指導目標が明確になったことで、具体的な単元の展開や手立ての工夫につながりました。



目的意識を持って主体的な学びへ

小学部「国語科」の実践



思考力・判断力・表現力等の育成

中学部「国語科」の実践



明確な目標  
自分で考え  
自分で判断

高等部「数学科」の実践

### 石川支援学校の取組

#### 各教科の授業づくりのプロセス

実態把握

学習指導要領の  
各教科の目標・内容

自立活動の  
視点

学びの履歴

指導目標設定

指導内容の設定  
手立て・工夫

自立活動の配慮

#### 各教科と自立活動との関連を活かした授業づくり



小学部 算数科の例

□ 目標：長さの単位 (mm) を用いることの必要性に気づき、単位の意味について理解すると共にそれを用いて測定することができる。

□ 「色別の物差し」や「指し棒」を準備し、どこに注目すべきかを分かりやすくし、「mm」の単位に気付くことができるように働きかける。

「mm」が分かった!

石川支援学校では、自立活動の指導が、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っていることを踏まえ、各教科と自立活動との関連を整理した取組がなされました。各教科の段階における目標、内容をおさえて、資質・能力を踏まえた指導目標、指導内容を設定し、自立活動との関連を活かした授業づくりにつながりました。

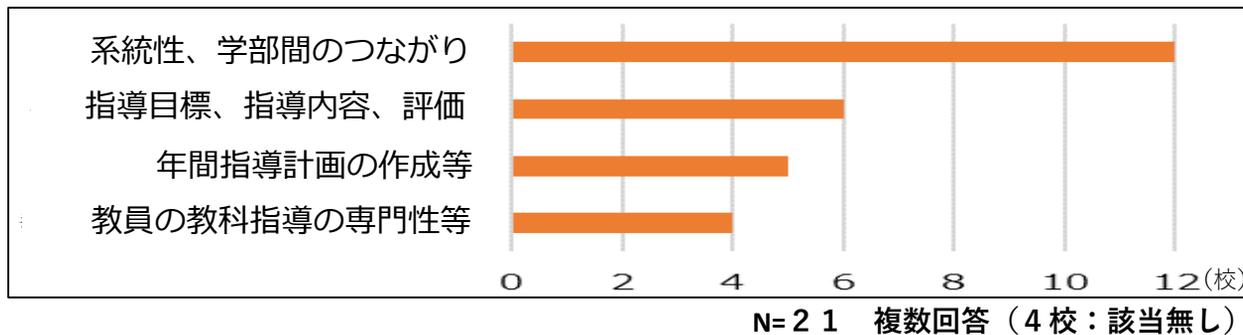
# 知的障がいのある児童生徒を教育する 特別支援学校における教科指導に関するアンケート結果



知的障がいのある児童生徒のための教科指導の充実に向け、現状と課題を把握することを目的として、学校用アンケートを県内特別支援学校25校、個人用アンケートを研究協力校7校を対象に実施しました。その集計結果について、一部、ご報告します。

## 知的障がいのある児童生徒への教科指導に関するアンケート【学校用】より

【各学校の課題】



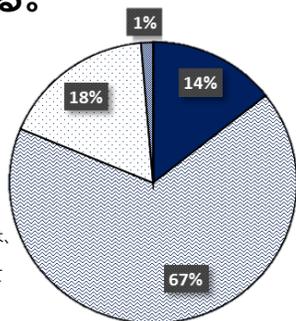
### <考察>

各校から出された課題のキーワードを抜き出し、項目としてまとめた。「**系統性や学部間のつながり**」に関する項目が最も多く、半数以上の学校から挙げられていた。他に、「指導目標、指導内容、評価」「年間指導計画の作成等」「教員の教科指導の専門性等」などの項目が挙げられた。各校で**系統性や学部間のつながりに課題意識**をもっている。

## 知的障がいのある児童生徒への教科指導に関するアンケート【個人用】より

### 【問1】

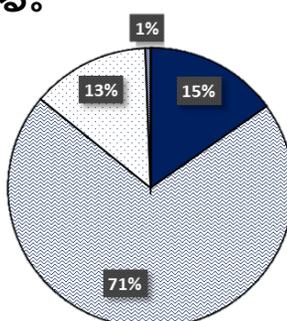
授業の単元（題材）について考えるとき、**学習指導要領や学習指導要領解説で、各教科の目標や内容を確認**している。



※割合の数値は、小数第1位で四捨五入している。以下、同じ。

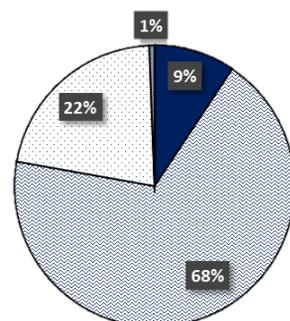
### 【問4】

児童生徒の生活年齢を基盤としつつ、知的発達等に応じて、**各教科の各段階における内容を踏まえた指導内容を設定**している。



### 【問6】

各教科の目標や内容を踏まえ、**評価の在り方**を工夫し、授業改善に取り組んでいる。



■ 4 :よくあてはまる ■ 3 :ややあてはまる ■ 2 :あまりあてはまらない ■ 1 :あてはまらない N=662

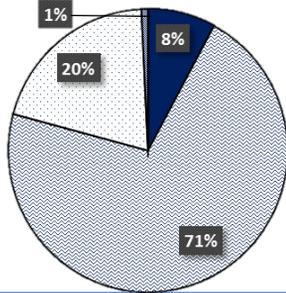
### <考察>

問1、問4、問6とも、約80%の教員が「よくあてはまる」や「ややあてはまる」に回答している。意識して日々の授業づくりや改善に取り組んでいると考えられる。一方で、「よくあてはまる」のみに注目して見てみると、まだまだ低い数値であり、**指導内容の設定や評価の在り方**について、**課題意識をもっている**ことも伺える。

# 知的障がいのある児童生徒への教科指導に関するアンケート【個人用】より

## 【問3】

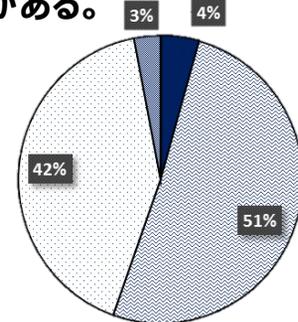
各教科の目標や内容を理解し、日々の授業の中で計画的に位置づけて指導している。



各教科等を合わせた指導となると、授業のねらいが曖昧！

## 【問5】

各教科等を合わせて指導を行う場合に、授業のねらいが曖昧になることがある。



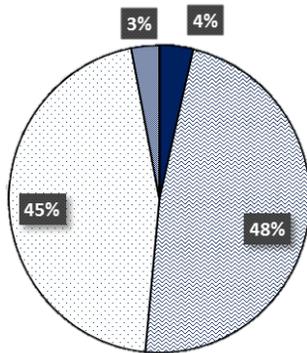
■ 4:よくあてはまる ■ 3:ややあてはまる ■ 2:あまりあてはまらない ■ 1:あてはまらない N=662

### <考察>

問3では、各教科の目標や内容を理解して指導している数値は、「よくあてはまる」「ややあてはまる」を合わせると79%と高い。しかし、問5の各教科等を合わせた指導を行う場合、55%が授業のねらいが曖昧になっていると回答している。**教科別の指導と各教科等を合わせた指導との関連や、合わせている各教科等の指導目標、指導内容が不明確**になっていることなどが考えられる。

## 【問7】

小学部から高等部まで、各教科の各段階における内容を踏まえ、体系的な学習が行われている。

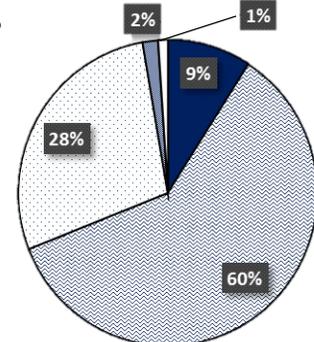


### 比較

学年間、学部間の引き継ぎは行われるが、小・中・高の体系的な学習に課題がある！

## 【問8】

児童生徒の学習状況（何を学び、何が身に付いたか）を把握し、学習してきた各教科の目標や内容の段階を明確にして、次の学年や学部引き継いでいる（学校間も含む）。



■ 4:よくあてはまる ■ 3:ややあてはまる ■ 2:あまりあてはまらない ■ 1:あてはまらない □:無回答 N=662

### <考察>

問7は、「よくあてはまる」もしくは「ややあてはまる」に回答したのは52%であった。問8では、学習状況の把握や引き継ぎに関する問いである。69%が「よくあてはまる」もしくは「ややあてはまる」に回答している。問8で、学習状況について引き継ぎが行われていると回答があったにもかかわらず、問7の**小学部から高等部までの体系的な学習**が行われているという回答については、数値が減っている。

今回のアンケート結果を踏まえ、課題解決に向け、本センターの教育研究において、次年度、様々な取組を行ってまいります。くわしくは、次号『実践研究通信 第3号』にて紹介します。

# 特別支援学校学習指導要領 改訂のポイント

## 「深い学び」の鍵となる各教科等の見方・考え方



各学校で、授業実践が進むにつれて、主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点が取り上げられています。今回は、その中で特に各学校で話題になっている「深い学び」について整理し、実践例を挙げてまとめました。「深い学び」を意識した授業づくりに参考にしてください。

### 「深い学び」とは

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点

### 各教科等の「見方・考え方」とは（国語科の例）

国語科の目標

#### 1 目標

**言葉による見方・考え方を働かせ**、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 以下省略

#### <国語科> 「言葉による見方・考え方」

児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え直したり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

引用：特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 総則編・各教科等編

### 中学部国語科「季節の俳句をつくろう」 あぶくま支援学校 実践例

言葉による見方・考え方を働かせ、  
子どもたちの「深い学び」を引き出すしかけ



季節の言葉を確認する



季節の言葉を関連付け、  
言葉の意味を捉え直す



季節の言葉を形にして、  
理解を深める



季節の言葉を表現し、  
言葉への自覚を高める

いがぐりは、痛くて触れなかったよ。

ぱくっと食べた柿は、甘かった。

さつまいもは、がさがさぽっこりしているね。

ぶどうは、あめ玉みたいだね。

子どもたちの言葉を引き出すために、学校周辺を探索し、季節のものを見て、触れて、表現して観察することを行った。五感をすべて働かせて季節（秋）の言葉を感じることで、子どもたちは、これまでの生活経験と目の前にある季節のものを、言葉で捉え直し、結びつけることができた。この実践を通して、子どもたちが、まさに「言葉による見方・考え方」を働かせながら、次々と言葉で表現し、「深い学び」の中でオリジナルの俳句をつくり出す姿が見られた。